

感染制御室

1. スタッフ（2024年4月1日現在）

室 長（教授）	福地 貴彦 （総合診療科・感染症専門医）専任
室長補佐	水上由美子 （感染管理認定看護師）専従
看 護 師	阿久津充生 （感染管理特定認定看護師）専従
臨床検査部主任臨床検査技師	志野 真錦 （細菌検査担当）専任
薬剤部主任薬剤師	立石 直人 （抗菌化学療法認定薬剤師）専任
薬剤部薬剤師	熊倉 悠人 （抗菌化学療法認定薬剤師）専任
事 務	1名（派遣職員）

2. 感染制御室の特徴

感染制御とは、院内における感染症を未然に防ぐこと、早期に発見することであり、さらに適切に治療や感染対策を実施することで感染拡大を防止することである。

感染症専門医、感染管理認定看護師（CNIC）、薬剤師、細菌検査技師、事務が所属し、感染対策委員会、ICT、AST、リンクナース、リンクスタッフ、リンクドクター会を運営し、感染症に関する情報収集や周知、講演会・指導・啓蒙活動、サーベイランスなどを行っている。

3. 2024年度活動目標と評価

- 1) 擦式アルコール製剤の使用量増加を目指し、病棟における直接観察の評価を行う。
 - ・擦式アルコール製剤の使用量は21.55L/1,000患者日であり、2023年度より増加した。
- 2) 抗菌薬適正使用を推進し、耐性菌の抑制のためにカルバペネム系薬の適正使用を推進する。
 - ・カルバペネム使用量は低下傾向であり、100人あたりのDOT（Days of therapy）は昨年度と比べ5.02から4.44と低下した。
- 3) 地域における感染対策の向上のために、医療機関や市民へ情報提供を行う。

地域連携カンファレンスを通じて、地域の医療機関へ感染症流行状況や抗菌薬適正使用について情報提供を行った。市民公開講座を通じて、市民へ情報提供を行った。

4. 実績

- 1) 感染対策委員会：毎月開催
- 2) ICT巡回：年49回実施
- 3) ASTラウンド：年73回実施（新規コンサルテーション計110人）
- 4) 講演会・勉強会
 - (1) 講演会・研修会
 - ①講演会：2013年度より年1回以上の参加が義務付けられた。当日の定員を150名とし、Zoomによる配信、後日totaraにてe-learning、DVD上映会・貸し出しを実施した。
 - ・8月6日

講 師：賀来満夫 特任教授（聖マリアンナ医科大学 感染症学講座）

テーマ：医療従事者に必要なワクチン
 - ・12月10日

講 師：朝野和典 理事長（地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所）

テーマ：輸入感染症と耐性菌
 - ・3月11日

講 師：ICT・ASTメンバー

テーマ：ICT・ASTが目した警鐘的事例の報告
 - ②AST講演会：当日の定員を150名とし、Zoomによる配信、後日totaraにてe-learning、DVDの貸し出しを実施した。
 - ・10月1日

講 師：山本舜悟 先生（大阪大学大学院医学系研究科変革的感染制御システム開発学）

テーマ：外来での抗菌薬加療について
 - ③e-learning研修会：2016年度よりe-learningが実施され各テーマの合格が義務付けられた。
 - ・第一部：標準予防策 洗浄・消毒・滅菌
 - ・第二部：感染経路別予防策
 - ④委託職員向け研修会
 - ・器材の処理と管理方法 ～安全な器材使用のための洗浄・消毒・滅菌～（合計4回開催）
 - ・感染経路別予防策について（合計4回開催）
 - (2) 勉強会

感染管理認定看護師・ICT・ASTメンバーによる出張勉強会・オリエンテーションを25回開催
 - (3) 2024年度第2回市民公開講座
 - ・2月15日

テーマ：感染症の正しい理解と予防

①風邪に抗生物質は効きません！：熊倉悠人（薬剤師）

②感染症の予防と治療について～ワクチンと抗生物質～：福地貴彦（医師）

③自宅でできる感染対策～手洗い・マスクの使用など～：阿久津充生（看護師）

（４）肝臓病教室

・３月５日

テーマ：風邪に抗生物質は効きません！

肝臓病とお薬：熊倉悠人（薬剤師）

５）リンクドクター会・リンクナース会・リンクスタッフ会活動

・リンクドクター・リンクスタッフ合同会議を１回開催。また、各部署で擦式アルコール製剤の使用量について目標を立ててもらい、結果をフィードバックした。

・リンクスタッフと認定看護師の環境ラウンドを６回行った。

・リンクナース会：４回開催

・リンクナースと認定看護師の巡回を２３回実施し、感染管理の改善がみられた。

・手指衛生の優秀部門について、表彰を行った。
病棟部門：救命救急センター、集中治療部門：NICU・GCU、その他看護部門：外来２透析室、医療スタッフ部門：リハビリテーション部、総合最優秀賞：６階Ａ病棟。

６）感染症レポートは毎週作成し、COSMOS-webに掲載できた。

７）抗菌薬使用状況について
定期的に感染対策委員会で報告した。

８）厚生労働省の院内感染対策サーベイランス（JANIS）の参加

・検査部門、ICU部門、SSI部門、NICU部門に参加

９）感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）の参加

・AST関連・感染症診療情報、AMU情報、ICT関連情報、医療器具関連感染症情報、SSI情報、微生物関連情報に参加

10）各種サーベイランスの実施

・３病棟で中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランスを実施

・ICU・CCU、EICUで人工呼吸器関連肺炎サーベイランスを実施

・心臓血管外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、一般・消化器外科、呼吸器外科でSSIサーベイランスを実施

・耐性菌その他、院内感染上問題となる微生物サーベイランスの実施

11）地域医療機関との感染対策カンファレンスの開催

・さいたま北部医療センター、博仁会共済病院、ヘブロン会大宮中央総合病院、大宮双愛病院、外来加算連携病院、さいたま市保健所、大宮医師会と感染対策地域連携カンファレンスを４回開催した。また、

第３回については、新興感染症の発生等を想定したシミュレーション訓練を行った。

・指導強化加算取得のため、ヘブロン会大宮中央総合病院、博仁会共済病院、大宮双愛病院、さいたま北部医療センターを巡回し、改善点について指摘した。

12）さいたま市内加算１施設カンファレンスの開催

・さいたま市民医療センター、さいたま市立病院、さいたま赤十字病院、埼玉メディカルセンター、彩の国東大宮メディカルセンター、埼玉県小児医療センター、さいたま市保健所と３回カンファレンスを実施した。

・感染対策向上加算１取得のため、彩の国東大宮メディカルセンターと相互ラウンドを実施した。

13）私立医科大学感染対策協議会への参加

・東京慈恵会医科大学附属柏病院と私立医科大学感染対策協議会相互ラウンドを実施した。

14）学会発表

・阿久津充生：入院後に診断されたエムボックスの曝露後対応について 第３９回日本環境感染学会総会・学術集会 口演 ２０２４．７．２１ 京都

５．２０２５年度活動目標

１）擦式アルコール製剤の病棟における直接観察を継続し、手指衛生遵守率の向上を図る。

２）抗カルバペネム耐性緑膿菌の検出は他施設と比較して同程度まで改善してきているため、引き続きカルバペネム系抗菌薬の適正使用推進活動を行う。

３）地域における感染対策の向上のために、医療機関や高齢者施設等へ情報提供を行う。